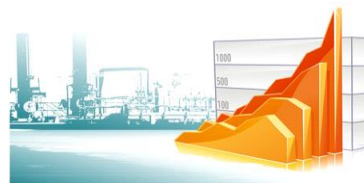


# ぎふ経済レポート



令和4年4月分  
岐阜県商工労働部

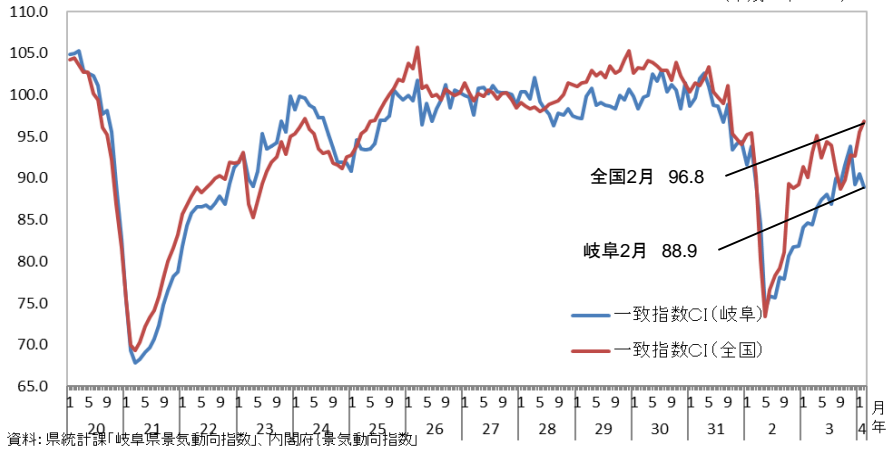
※企業等へのヒアリングは 4月25日～27日を中心に実施し、5月13日時点で作成。

# 景気動向

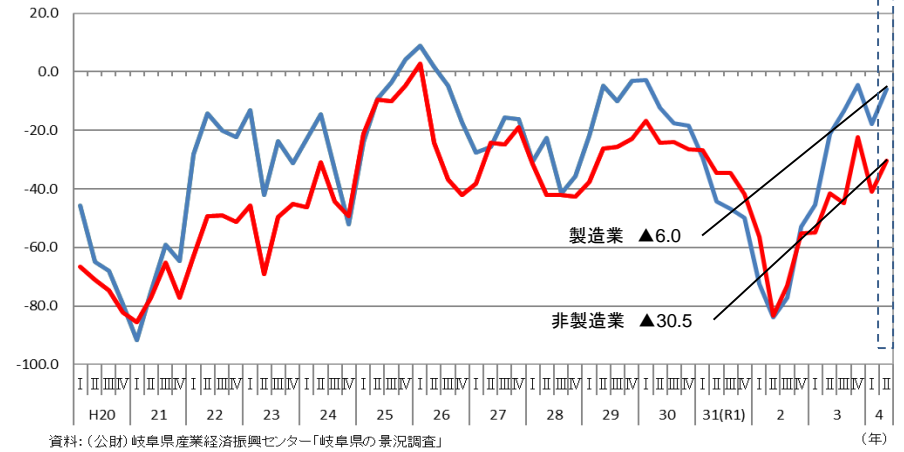
- 2月の景気動向指数(一致指数)は、88.9で前月比▲1.6ポイント低下した。
- 3月の県内中小企業の景況感は、▲33で前月比6ポイント上昇した。

- R4年4-6月期の景況DI見通しは、製造業で前期比11.8ポイント、非製造業で同10.5ポイント上昇。売上高DI見通しは、製造業で前期比8.8ポイント、非製造業で同5.3ポイント上昇。

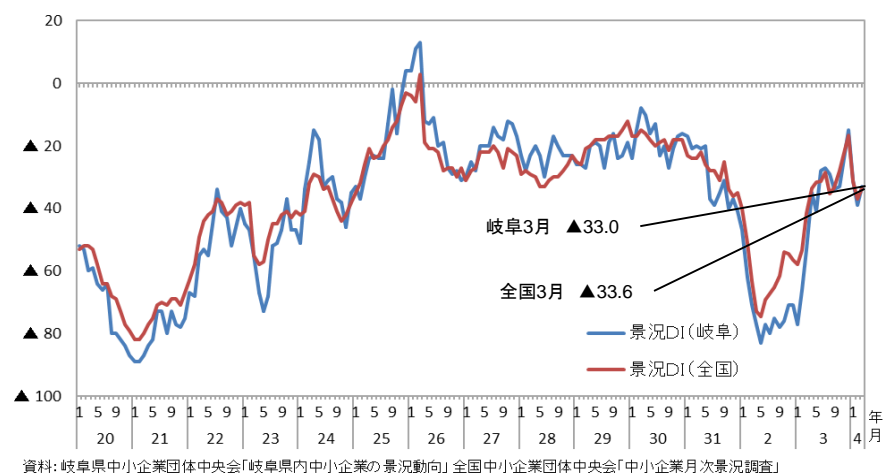
岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移 (平成27年=100)



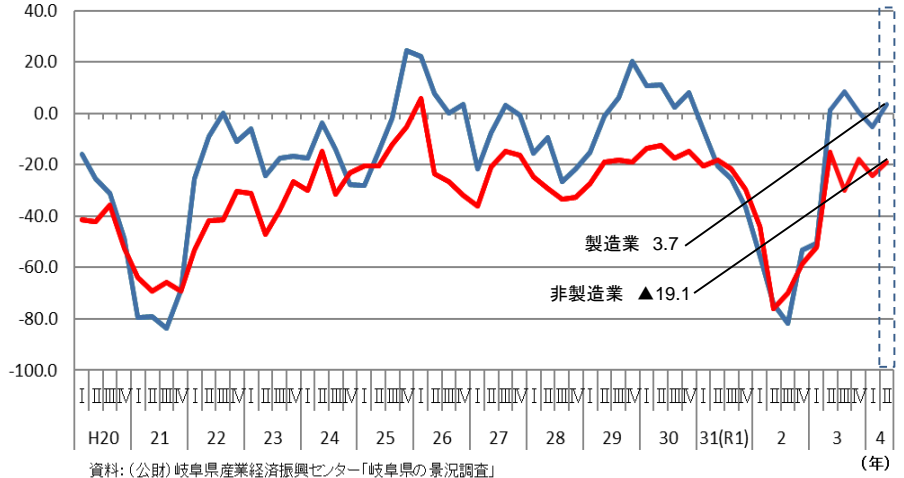
県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



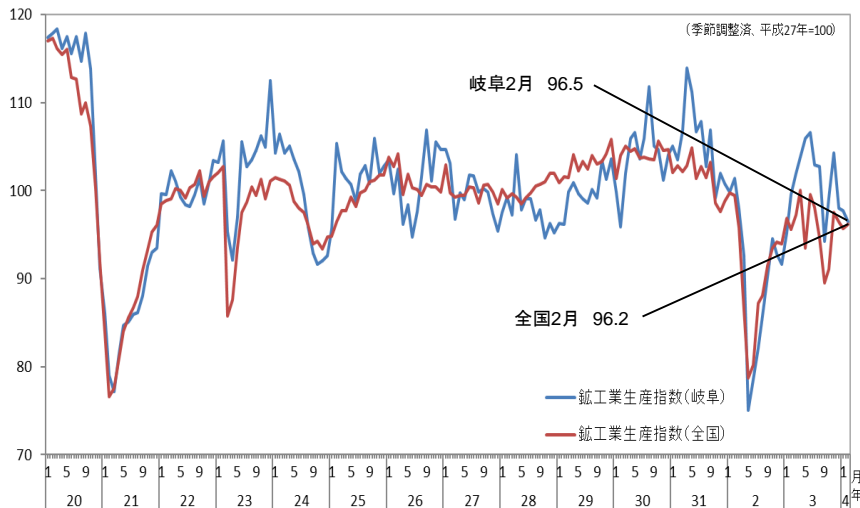
# 製造業

○2月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、96.5で前月比▲1.2%と低下。

○産業別の前月比では、電気機械、非鉄金属、鉄鋼業で低下したものの、その他全ての区分で上昇した。

○2月の主な産業の指数は、輸送機械で前期比26.2%、化学工業で同13.7%、窯業・土石で同2.8%、プラスチックで同1.0%、金属製品で同0.9%、はん用で同0.6%と上昇し、電気機械で同▲28.3%、非鉄金属で同▲6.9%、鉄鋼業で同▲6.2%と低下した。

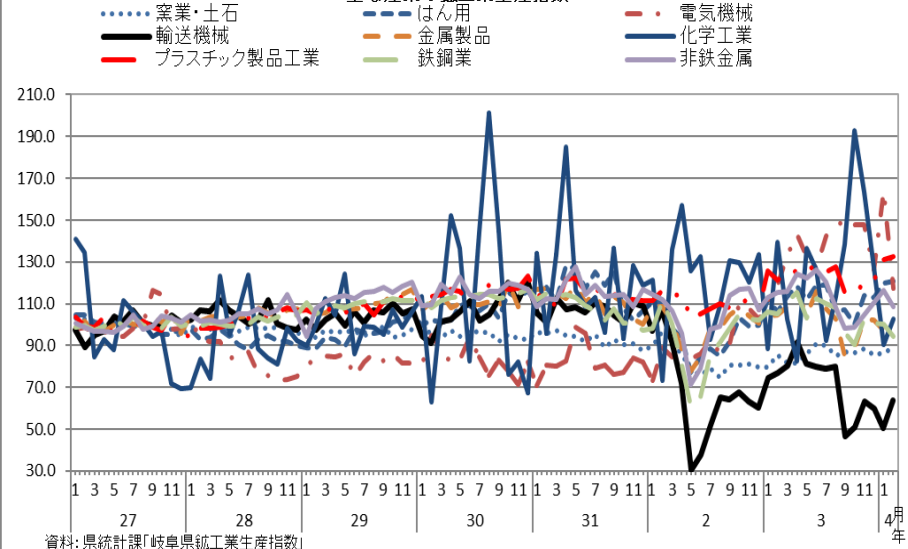
鉱工業生産指数の推移



資料: 県統計課「岐阜県鉱工業生産指数」、経済産業省「鉱工業生産指数」

主な産業の鉱工業生産指数

(季節調整済、平成22年=100)



資料: 県統計課「岐阜県鉱工業生産指数」

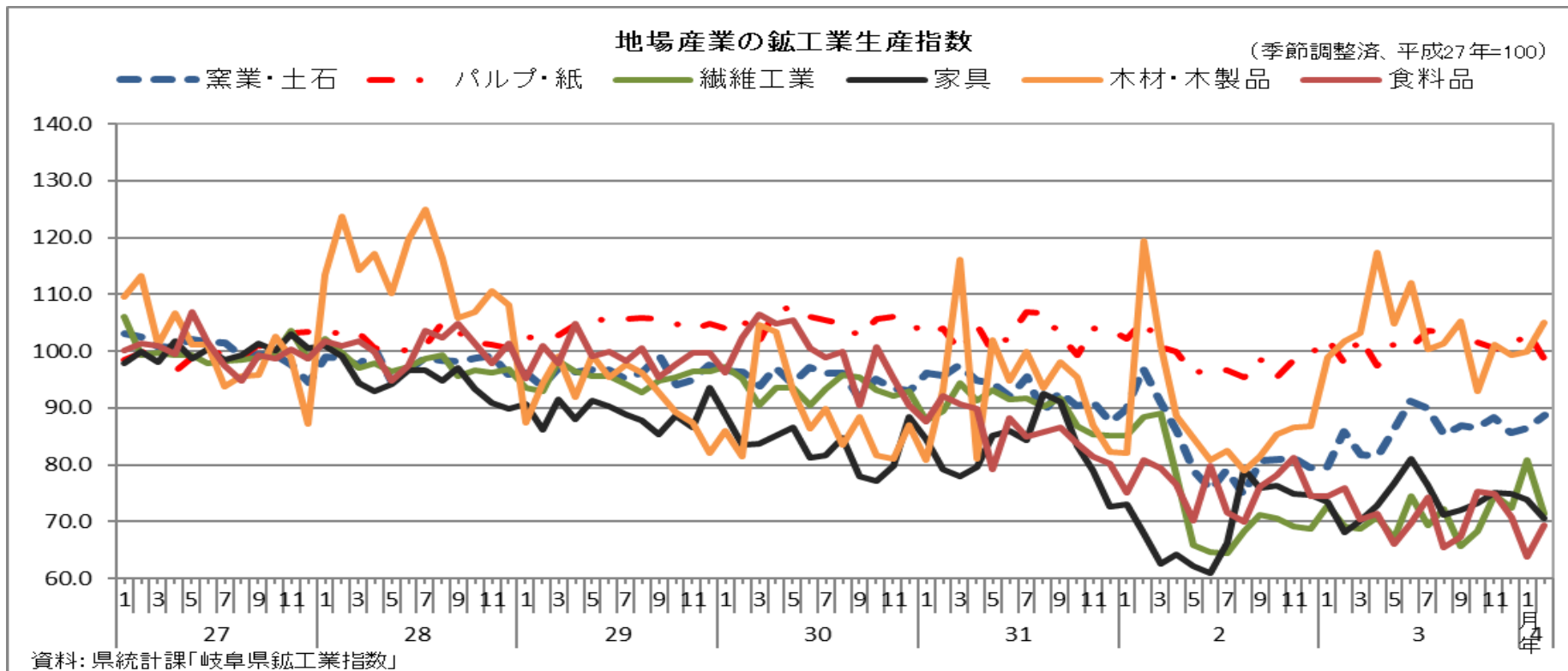
## 現場の動き

(※新型コロナウイルス感染症、原油や資材高騰、ウクライナ情勢に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ トヨタの減産の影響で、受注状況が悪化している。4～6月の内示段階において、減産の動きがある。(輸送機器)
- ◆ 生産稼働率については、100%近くで稼働している。円安やエネルギー価格高騰の影響は、今のところ感じていないが、今後間違いなく影響があると思う。(金属製品)
- ◆ 原油価格高騰と円安の影響で、材料価格が過去にないほど急上昇している。(プラスチック製品)
- ◆ 半導体や部品の入荷遅延はまだ続いており、従来からの電気部品関係だけでなく、樹脂や油関係の材料が入りにくくなっている。(電気機械器具)

## 製造業-2

○2月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、食料品で前月比8.5%、木材・木製品で同5.1%、窯業・土石で同2.8%と上昇した一方で、繊維工業で同▲11.7%、パルプ・紙で同▲4.8%、家具で同▲4.5%と低下した。



### 現場の動き

(※新型コロナウイルス感染症、原油や資材高騰、ウクライナ情勢に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ 依然として厳しい。コロナ前の同時期と比較すると5割程度の売上にとどまっている。(繊維・アパレル)
- ◆ 売上は前年比100%を超えている。しかし、ガスの値段が前年比2倍になり、また油薬等全ての材料費が高騰している。(窯業・土石)
- ◆ 売上は前年比103%増加。しかし、原材料は輸入が大半を占めているため、影響はかなり大きい。(木材・木製品)
- ◆ 売上は前年比139%増。しかし、原材料が1割程度値上がり。5月より値上げを予定している。(紙)

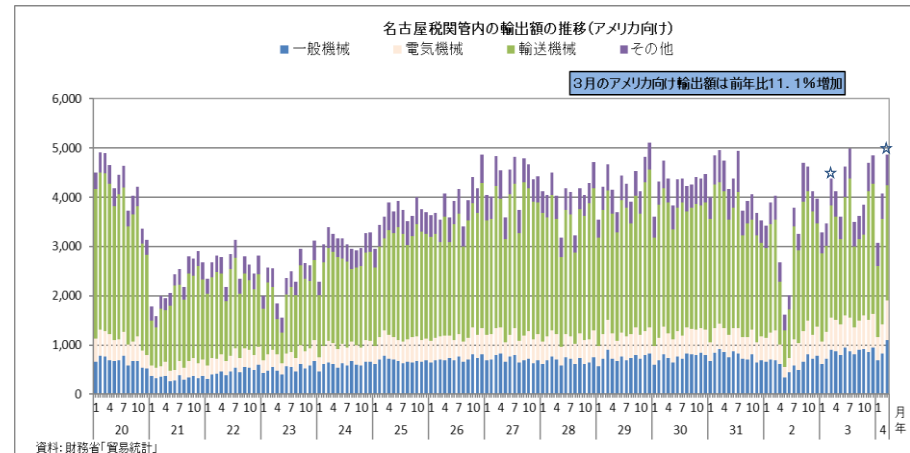
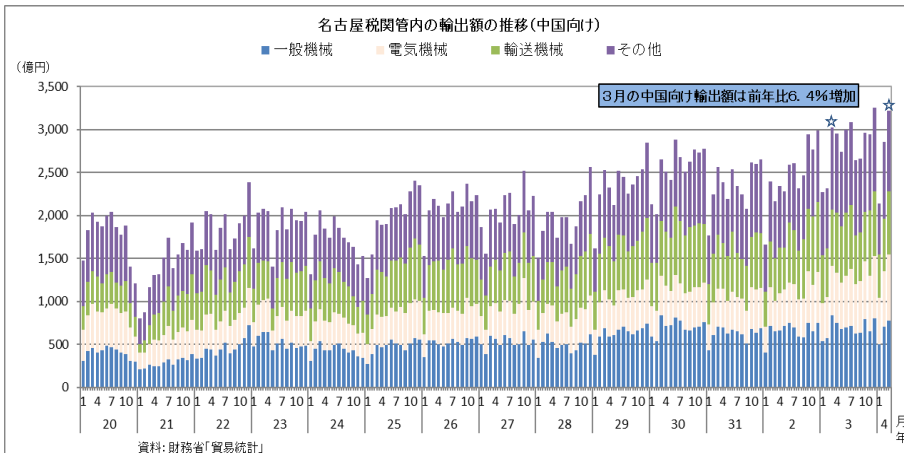
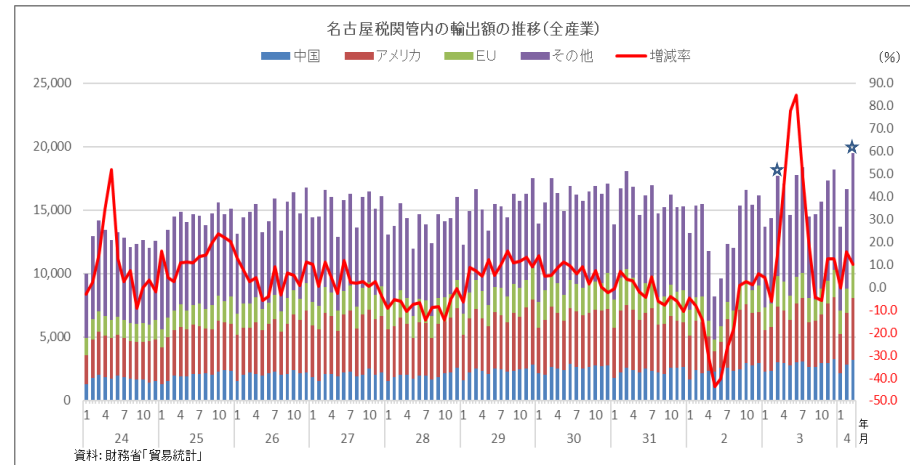
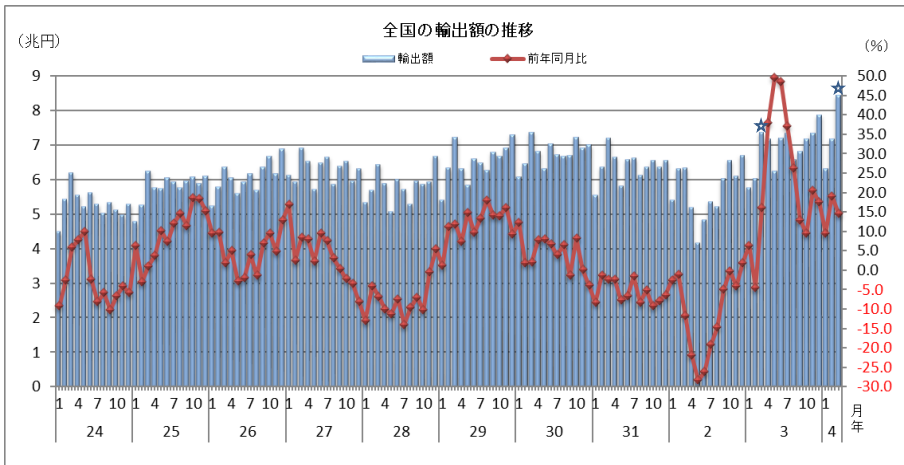
# 輸 出(名古屋税関管内)

○3月の輸出額(全国)は、8兆4,600億円の前年同月比14.7%増加した。

○3月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆9,466億円の前年同月比10.1%と増加し、2ヶ月連続で前年同月を上回った。

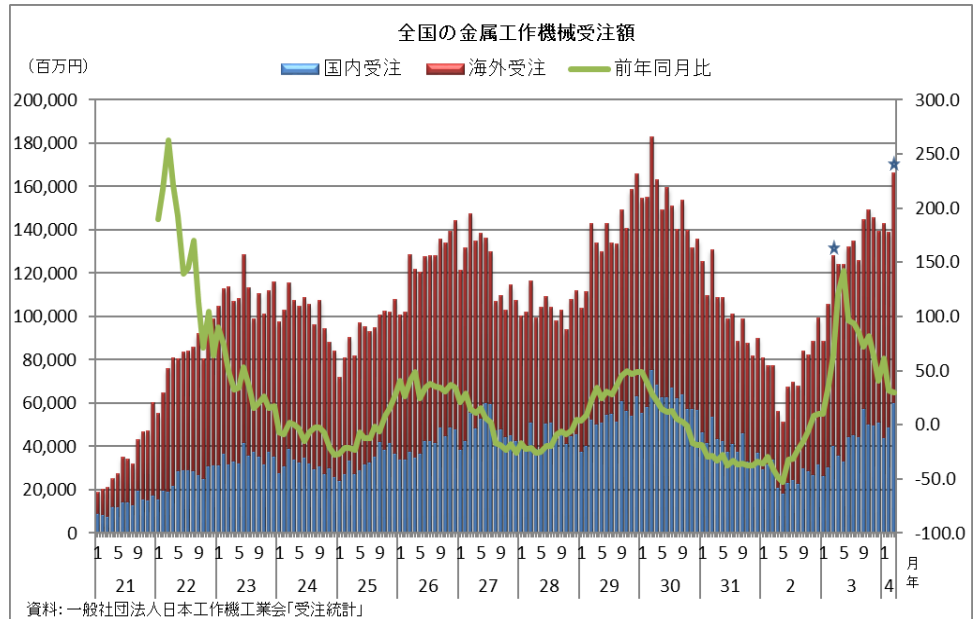
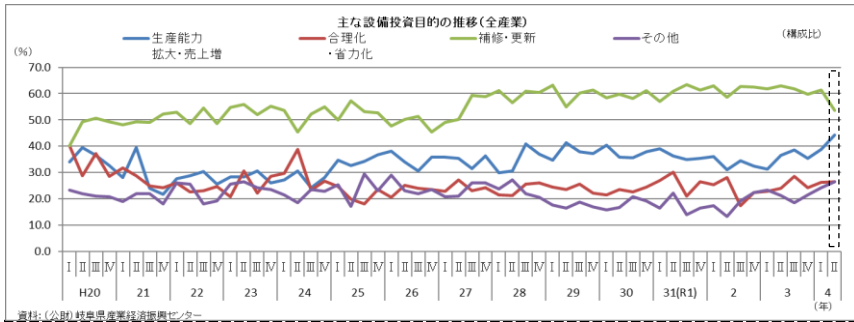
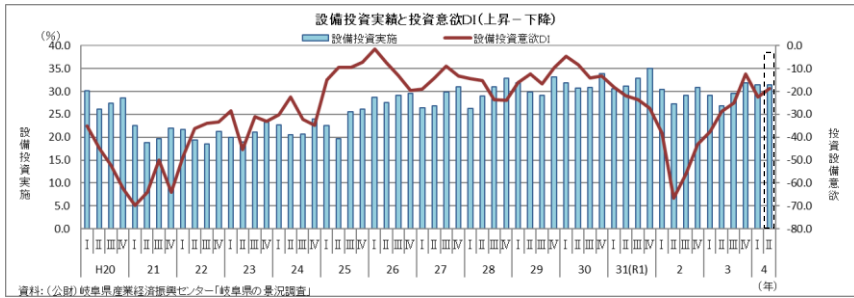
○中国向けは、全体で前年同月比6.4%と増加した。その内、電気機械で同33.1%、輸送機械で同13.4%と増加したものの、一般機械で同▲7.5%と低下した。

アメリカ向けは、全体で前年同月比11.1%と増加した。その内、一般機械で同20.8%、電気機械で同24.7%、輸送機械で同2.5%と増加した。



# 設備投資

○R4年4－6月期の設備投資実施DI見通しは前期比0.1ポイント上昇、設備投資意欲DI見通しは同3.6ポイント上昇。設備投資実施DI見通しの目的別では、「生産能力拡大・売上増」で前期比5.6ポイント、「合理化・省力化」で同0.2ポイント上昇、「補修・更新」で同▲7.8ポイント低下。  
 ○3月の全国の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比30.0%増加と17ヶ月連続で前年を上回った。内訳は国内受注では同48.8%増加と13ヶ月連続、海外向けは同21.3%増加と17ヶ月連続で前年を上回った。



## 現場の動き

(※新型コロナウイルス感染症、原油や資材高騰、ウクライナ情勢に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ 電気代が高騰していることや、カーボンニュートラルへの取組みを推進していくために、屋上で太陽光発電ができるよう検討している。(輸送機械器具)
- ◆ 補助金の導入により、機械導入を行った。人力から機械に変わり、生産効率が向上した。(木工)
- ◆ 航空部品のラインがもうすぐ稼働する。景気が回復した際に対応できるように準備しておく。(輸送機械器具)
- ◆ 大手の事業者は脱炭素を意識して窯の改修ができているが、ほとんどの企業が土練機などの小さい設備を改修する程度。(刃物)
- ◆ 中堅企業では、蓄電池の開発やエネルギー削減のための設備更新等がある(金融機関からのヒアリング)

## 新型コロナウイルス感染症、原油や資材高騰、ウクライナ情勢に伴う経済変動の影響について

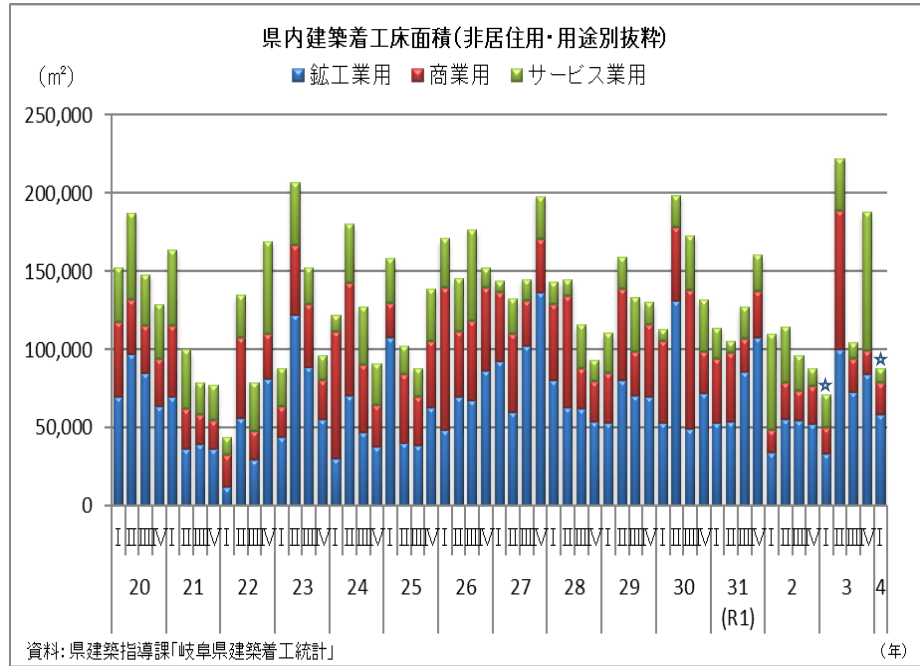
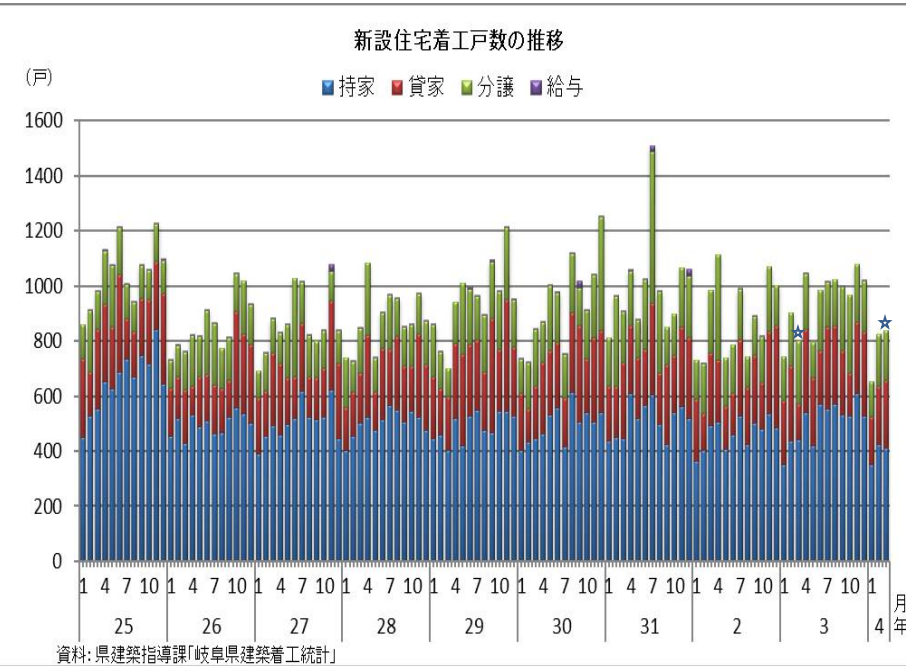
- ◆ 中国のロックダウンによるトヨタ減産の影響により、受注状況が大幅に悪化している。(輸送機械器具)
- ◆ 材料の調達や仕入れ価格に影響が出ている。生産が完結しない状況も発生している。(電気機械器具)
- ◆ 原材料費の値上がりについては、一部ユーザーに価格転嫁を申請しているものの、消耗品は自社吸収せざるを得ない。(非鉄金属)
- ◆ 半導体不足によるメーカーの生産調整は家電及び農機具分野にも出始めており、夏までは全分野でこうした輸入部品の不足感が続く見込み。(生産用機械器具)
- ◆ 受注や売上は前年より好調だが、資材価格高騰などにより、利益は減少の見込み。(はん用機械器具)
- ◆ 価格転嫁は一部では進んでいるが不十分で、発泡樹脂製品の収支が悪化している。(プラスチック製品)
- ◆ 原材料費上昇については、4月、10月の単価改定で上乘せ可能であるものの、単価に反映されない洗浄用のシンナーが高騰している分は自社で吸収している。(プラスチック製品)
- ◆ コロナの影響による半導体不足からくるトヨタの生産減、ウクライナ情勢による原材料価格の高止まりは業績にマイナス。先が見えない状況にあり、今後の予測はできない。(輸送機械器具)
- ◆ ハンガー等の石油製品や輸送料に影響が出てきている。(繊維・アパレル)
- ◆ ガスの値段が昨年比2倍になっている。粘土、釉薬、石膏などすべての原材料が高騰しているが、価格の転嫁は慎重に行う必要があるので困っている。(窯業・土石)
- ◆ 仕入単価が15～25%増加、海外輸出費は倍増した。得意先に価格改定を依頼しており、順次対応中。(刃物)
- ◆ 円安の影響により、海外売上において外貨決済の場合は10%程度増加し、利益も増加した一方、原材料の仕入れでは、多くが10%程度の値上がりとなり、当社においても5月より値上げを実施する。(紙)
- ◆ 製作から出荷に関わる全ての原材料(木材・金具・塗料・梱包用段ボール)と配送料が10%～30%程度値上がりしている。(木工)
- ◆ アルミや銅を使用する金型メーカー等製造業は、円安や原材料高の影響が顕著であり厳しい状況。輸入を行っている企業で、デリバティブ契約によりリスクヘッジしている企業は即座に収益が悪化するということはないが、そうでない企業は影響が大きい。また、急な円安によりデリバティブ契約の消滅条件に該当してしまい、契約が消滅しているケースもある。(金融機関からのヒアリング)

# 住宅・建築投資

○3月の住宅着工戸数は、前年同月比5.1%と増加した。

○持家で前年同月比▲6.4%、分譲で同▲20.4%と減少したものの、貸家で89.9%と増加した。

○1-3月期の非居住用の建築着工床面積は、サービス業用で前年同期比▲55.0%と減少したものの、鉱工業用で同76.0%、商業用で同17.1%と増加し、全体で同23.3%と増加した。



## 現場の動き

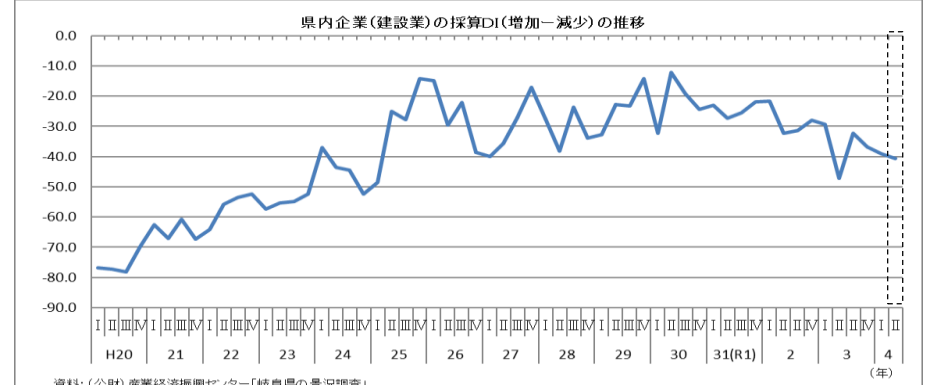
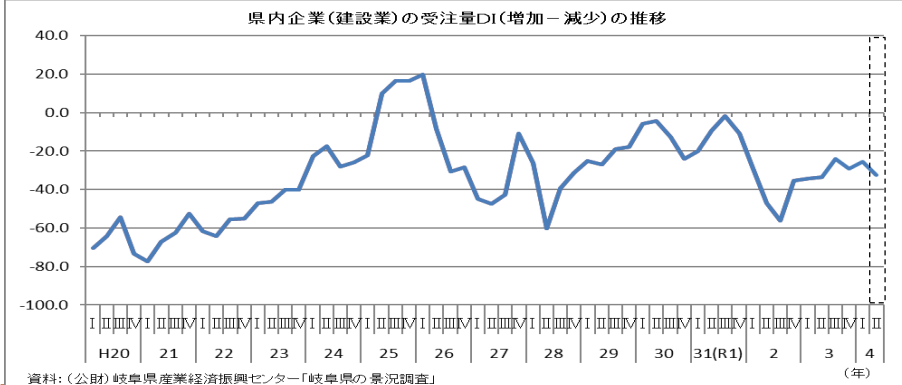
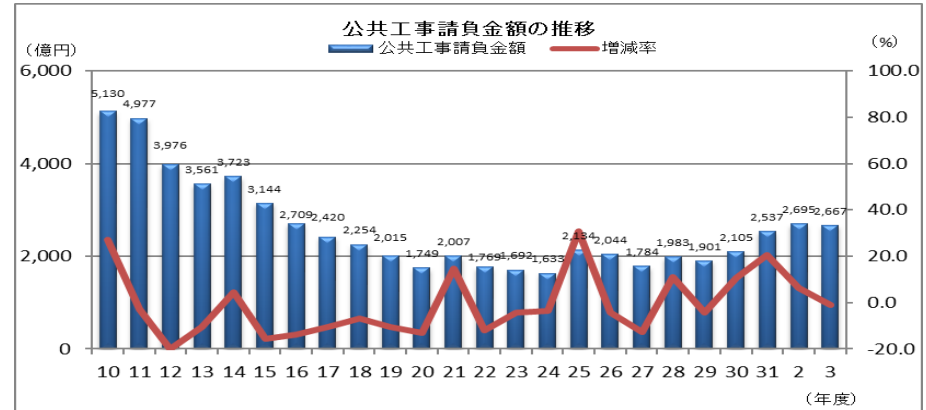
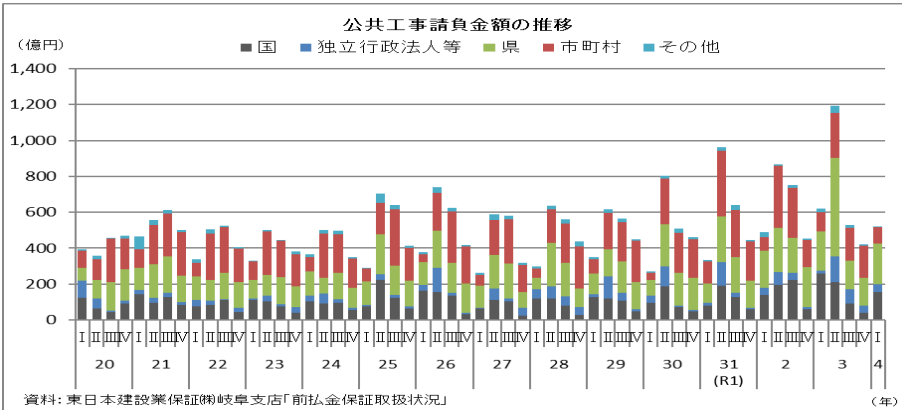
＜ウッドショックの影響も含む＞

- ◆ 木材の困り込みの動きがみられる。仕入価格は勝手に上昇していくが、消費者側の景況感に勢いはなく、川中～川下の業者は遠慮目に価格設定しているため、利益率が悪い。(木材加工)
- ◆ 木材の値上げは価格に転嫁してきたが、住宅関係では、便器、什器、キッチンの価格の上昇の話が聞こえてくる。(木材加工、建築)
- ◆ 現在は合板が顕著に影響を受け、価格が上昇している。GW明け以降にC(チップ用)材、それからA(製材用)・B(合板用)材にも影響が出てくると思われる。(組合)



# 公共工事

- 1-3月期の発注者別の公共工事請負金額は、独立行政法人で前年同期比200.8%、県で同3.4%増加したものの、国で同▲40.6%減少するなど、全体で同▲16.1%減少した。
- 県内建設業のR4年4-6月期の受注量DI見通しは前期比▲6.9ポイント、同採算DIは同▲1.5ポイント低下。



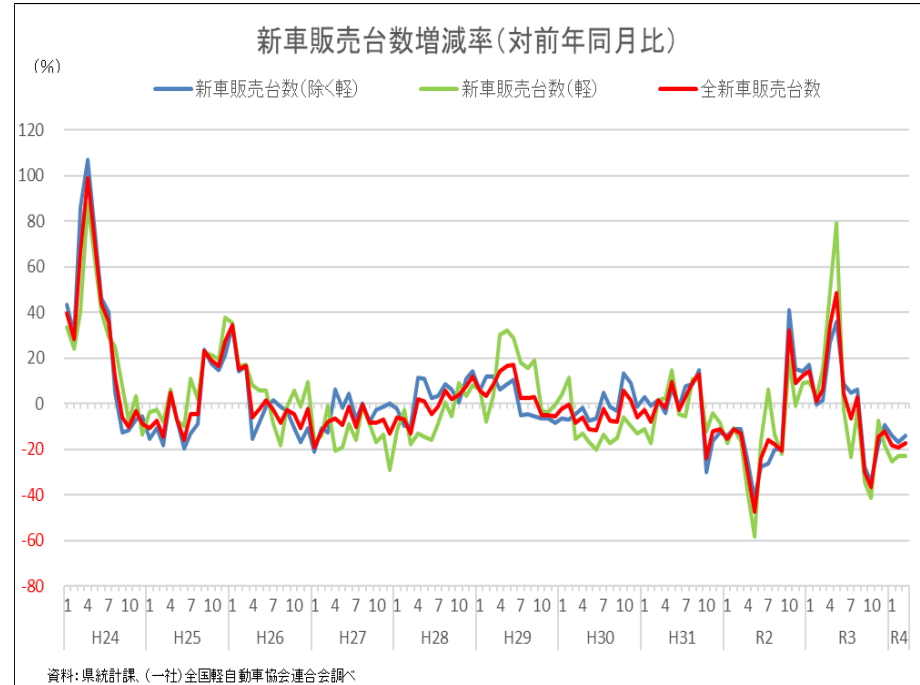
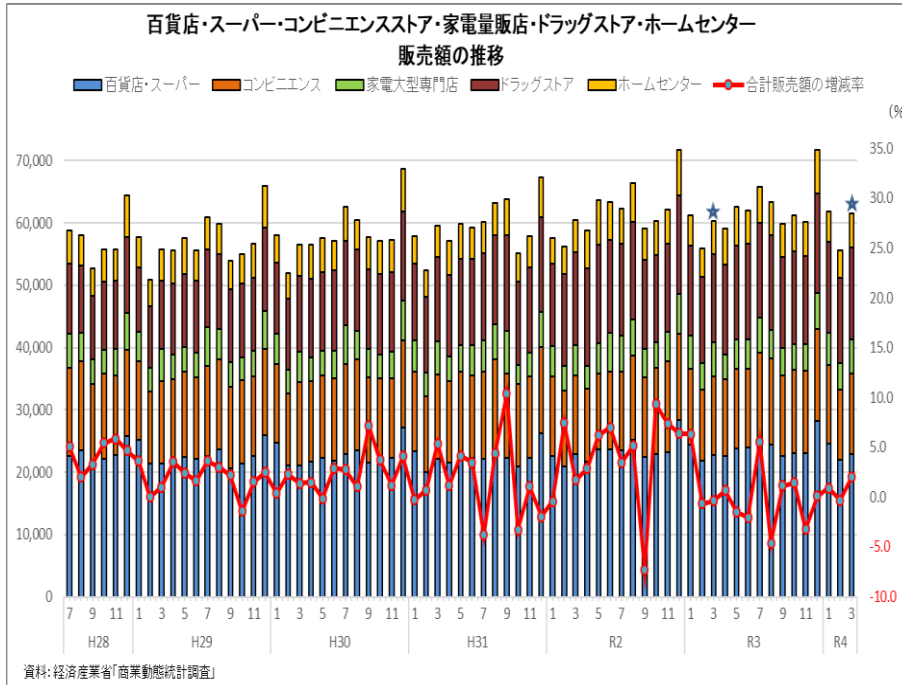
## 現場の動き

- ◆ 合板、異形棒鋼、建築鋼材(ステンレス・高圧ボルト・H鋼・コラム)類が高騰している。
- ◆ 新卒者の採用については、ここ数年同様希望人数に届かず。建設業界の魅力を向上させていく必要がある。
- ◆ 技術者が不足、業界内で取り合いが進んでいる。
- ◆ 国交省がICT施工を加点対象とする動きが加速している。自社での取組みが求められており、生産性が向上される、働き方が改善される等のメリットと費用面を勘案し検討している。(以上、建設)

# 個人消費(流通・小売)

○3月は百貨店・スーパーで前年同月比1.0%、コンビニで同2.3%、ドラッグストアで同4.5%、ホームセンターで同1.7%と増加し、家電大型専門店が±0.0%となり、全体で同2.0%と増加した。

○3月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比▲14.2%と7ヶ月連続で前年同月を下回った。軽自動車は同▲23.0%と10ヶ月連続で前年同月を下回った。合算では同▲17.4%と、前年同月を7ヶ月連続で下回った。



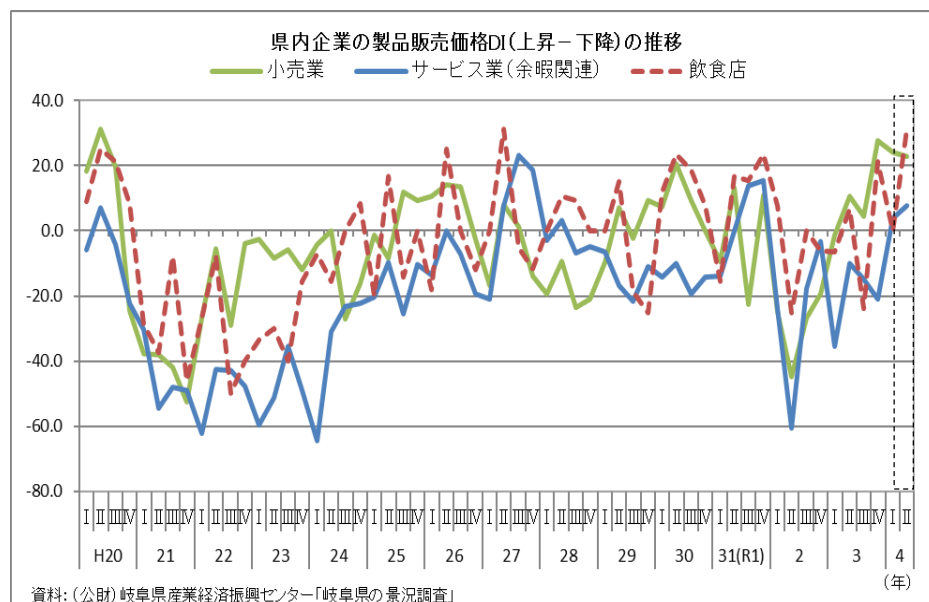
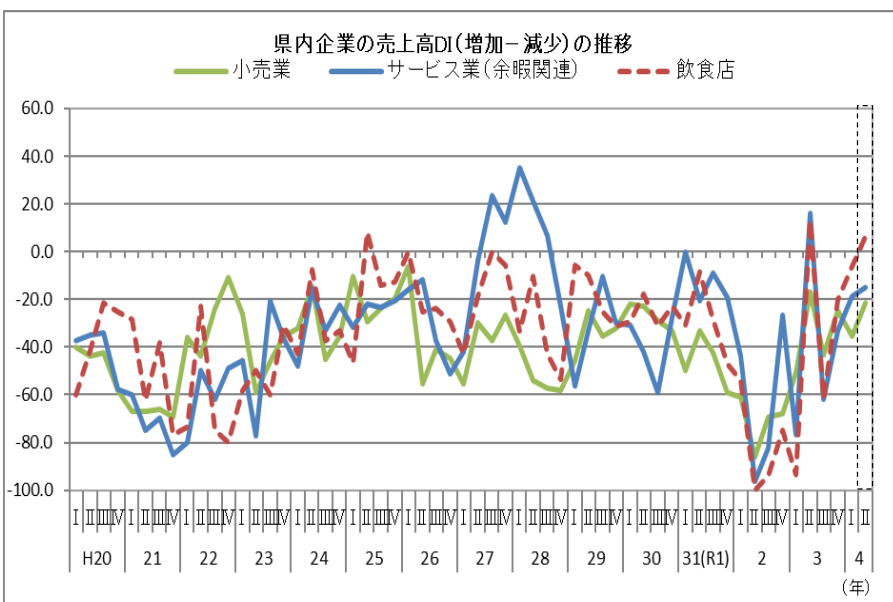
## 現場の動き

- ◆ 原材料価格高騰のため、客の買い物点数が減少している。
  - ◆ 一部メーカーで価格転嫁が始まり、販売価格が上昇する商品がでてきた。今後対象が拡大する恐れがある。
  - ◆ トレー等の価格が上昇している。
  - ◆ 税負担、社会保険料の負担増に加え、ウクライナ問題がガソリン価格の高騰や物価上昇に拍車をかけ、国内消費の減退が危惧される。まん延防止等重点措置解除による市場回復には、相応の時間がかかると予測している。
- (以上、県内商業施設)

## 個人消費(流通・小売)－2

○R4年4－6月期の売上高DI見通しは、小売業で前期比13.6ポイント、サービス業(余暇関連)で同3.8ポイント、飲食店で同12.4ポイント上昇。

○同じく販売価格DI見通しは、小売業で前期比▲1.4ポイント低下したものの、サービス業(余暇関連)で同4.0ポイント、飲食店で同31.3ポイント上昇。



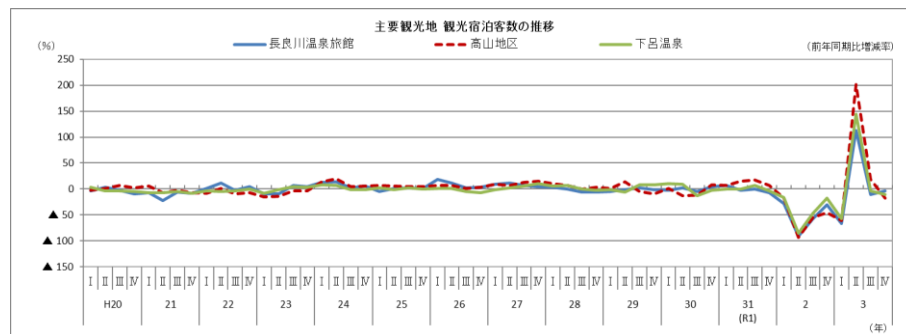
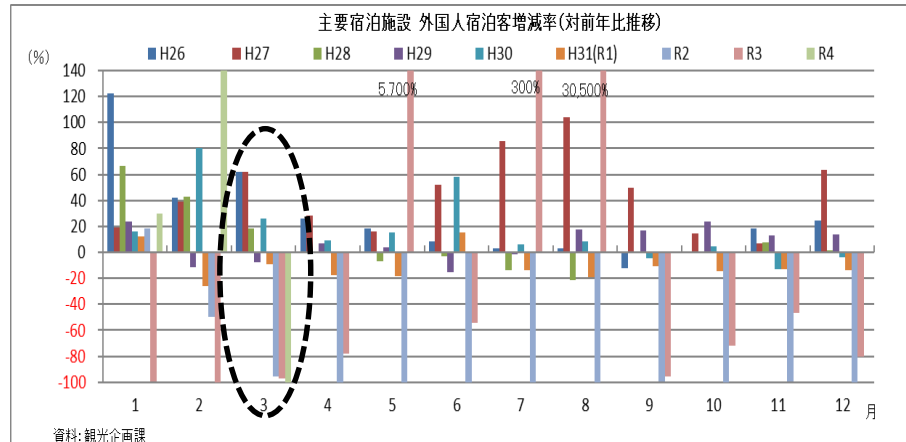
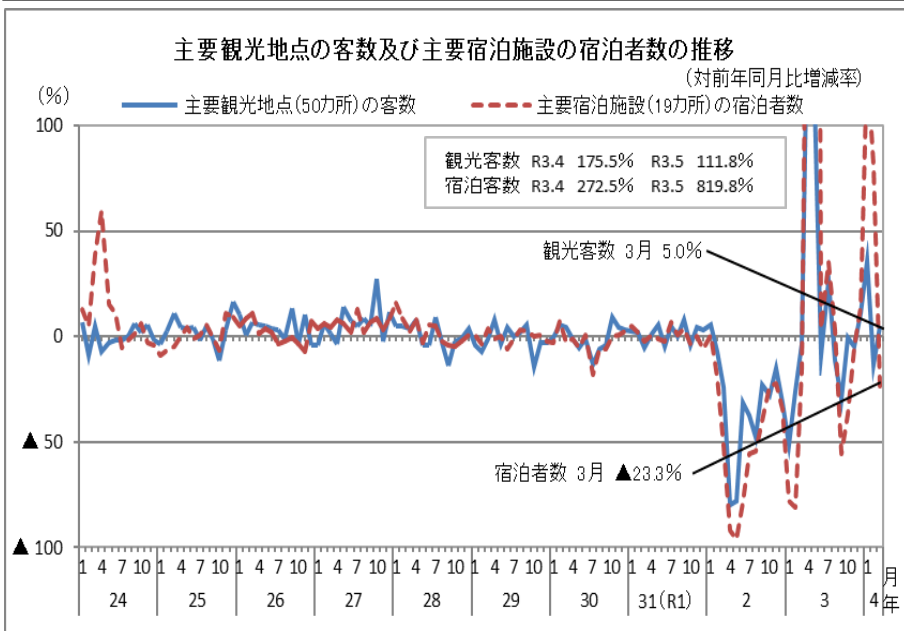
### 現場の動き

- ◆ スーツ用ウール生地がこの春からおよそ10%値上げ。秋には再度5%値上げ予定。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆ まん延防止等重点措置解除後、再開した飲食店も多く、飲食店への配達は増加したが、コロナ前より飲食店での滞在時間が短いなど、まだまだコロナ前の売上には戻らない。(多治見市商店街)
- ◆ 酒類販売業界では、飲食店への卸売だけではなく、家飲み需要に対応するべく工夫を凝らしているが、コロナ前の売上には遠い印象。(多治見市商店街)
- ◆ 業界的には金の相場が上がっており、貴金属類が値上がりしている。(多治見市商店街)

# 観光

- 主要観光地における3月の観光客数は、前年同月比5.0%増、コロナ前の令和元年同月比では、▲23.3%減となっている。
- 主要宿泊施設における3月の宿泊者数は、前年同月比22.4%増、令和元年同月比では、▲48.9%減となっている。

- 3月の主要宿泊施設における外国人宿泊者数は、前年同月比及びコロナ前の令和元年同月比では▲100%減となっている。

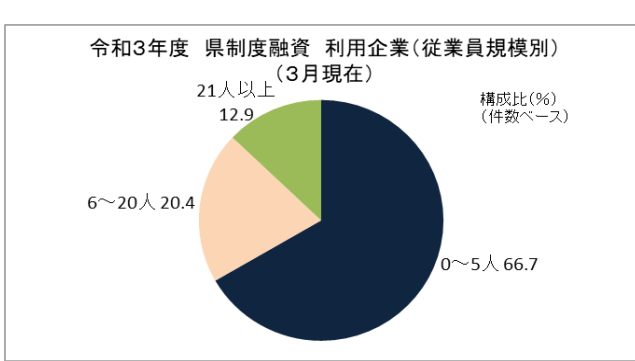
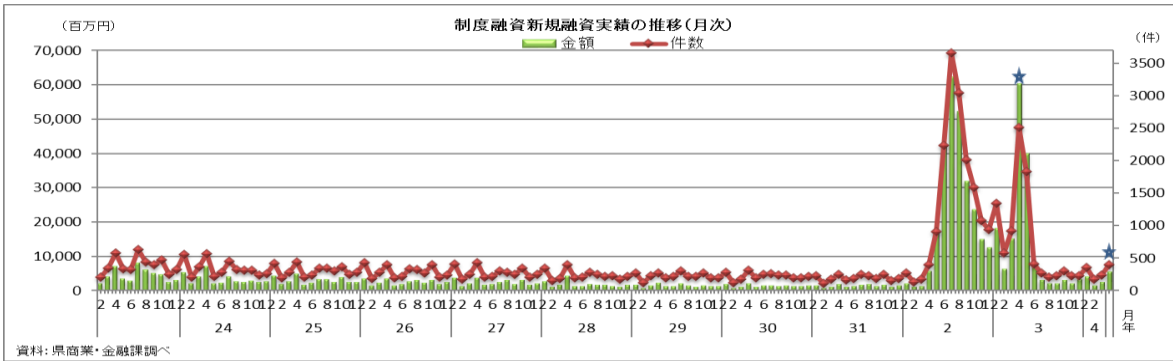
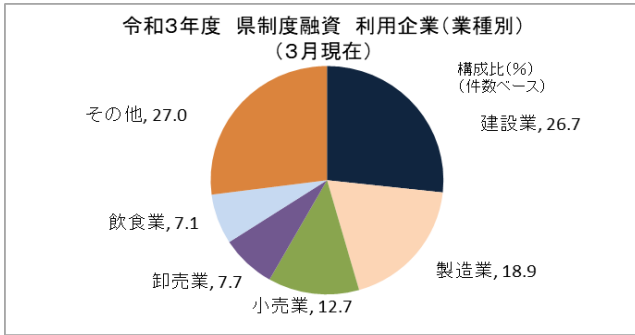
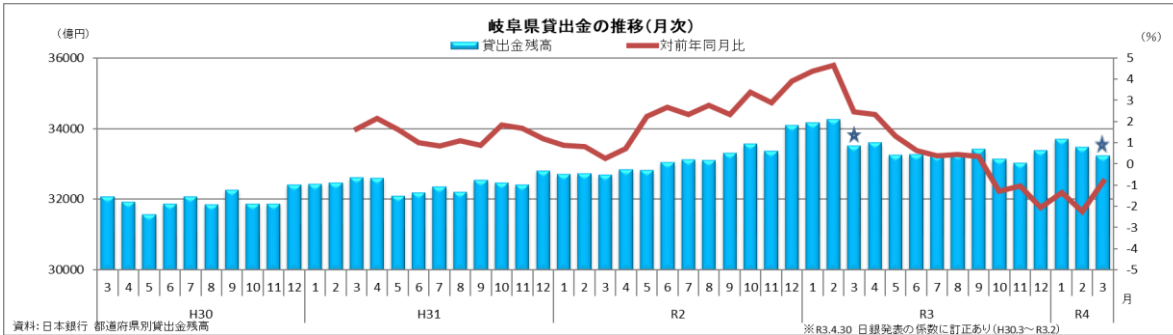


## 現場の動き

- ◆まん延防止の解除や県の宿泊割引キャンペーンによって予約が少しずつ増えてきた。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆コロナ前の令和元年と比較して4~5割の売上である。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆コロナ前の令和元年と比較して予約数は全体を通して7割減少しており、うち団体客は5割減少している。(高山市内の宿泊施設)
- ◆個人客やグループ客が主流となっている。(高山市、下呂市内の宿泊施設)
- ◆原材料の高騰により、レストランの単価を上げることとなった。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆原材料の高騰はあるが、現状では単価の値上げが難しい。(岐阜市内の宿泊施設)

# 資金繰り

- 3月の岐阜県貸出金残高は、3兆3,228億円で前年同月比▲0.8%と6ヶ月連続で減少。
- 3月の制度融資実績は、金額が5,611百万円で前年同月比で▲90.7%、件数は395件で同▲84.3%と、いずれも11ヶ月連続で減少した。
- 従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の66.7%を占めている。

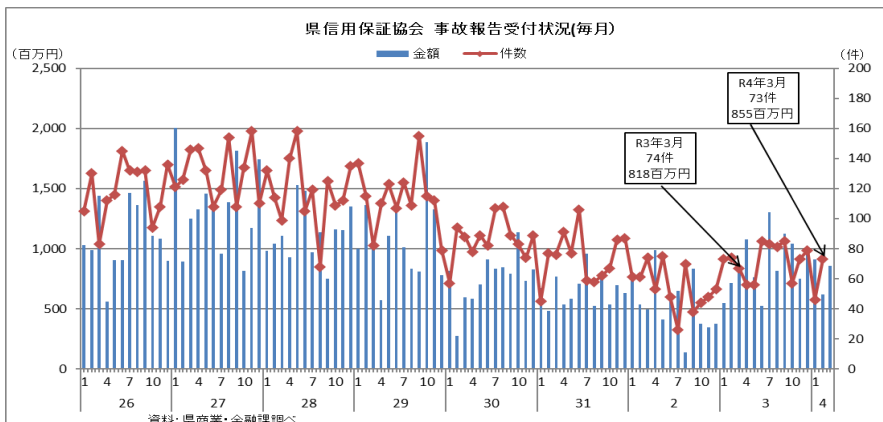
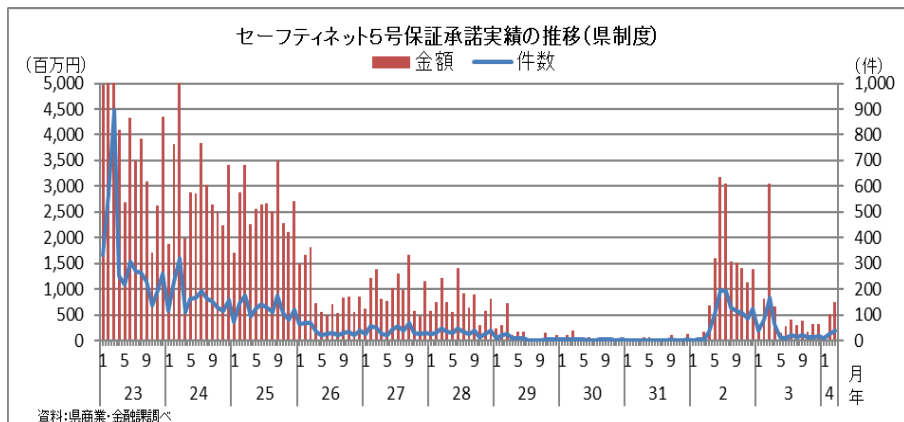
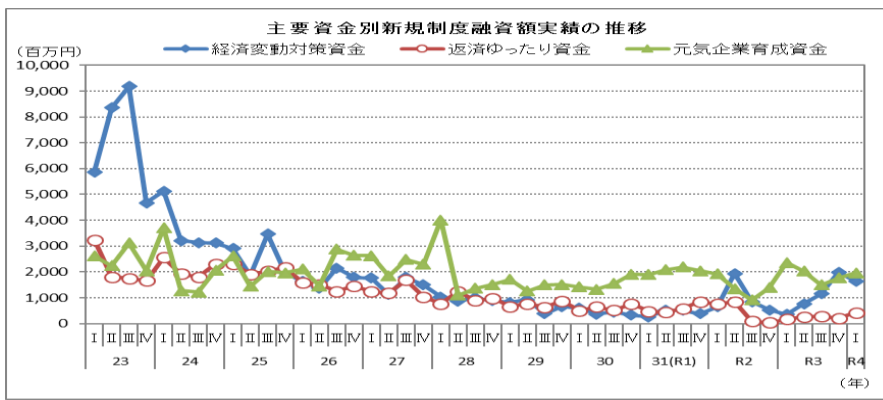
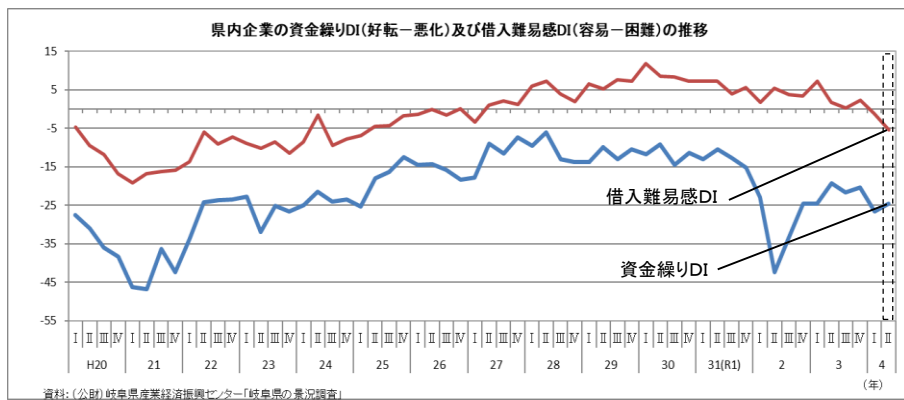


## 現場の動き

- ◆ ゼロゼロ融資から一服し、融資には慎重である。
- ◆ 価格転嫁は交渉しているものの厳しい状況。交渉の結果、すぐに価格転嫁できる状況もなく、半年先に反映されるといったようなタイムラグがあるため、収益への影響も懸念される。
- ◆ 今夏以降に設備投資を行うという話がでてきている(物流施設の統合や、工場の新設、EVシフトへの対応等)。
- ◆ 金融庁が「中小企業の事業再生等に関するガイドライン」を発表したが、それが今後どのように始動するのか、また、ガイドラインを踏まえた他の金融機関の動向について注視している。(以上、金融機関)

# 資金繰り-2

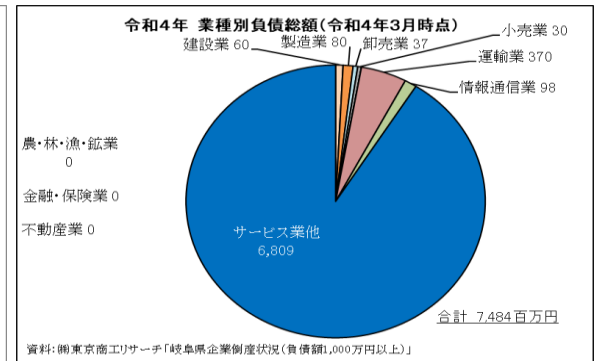
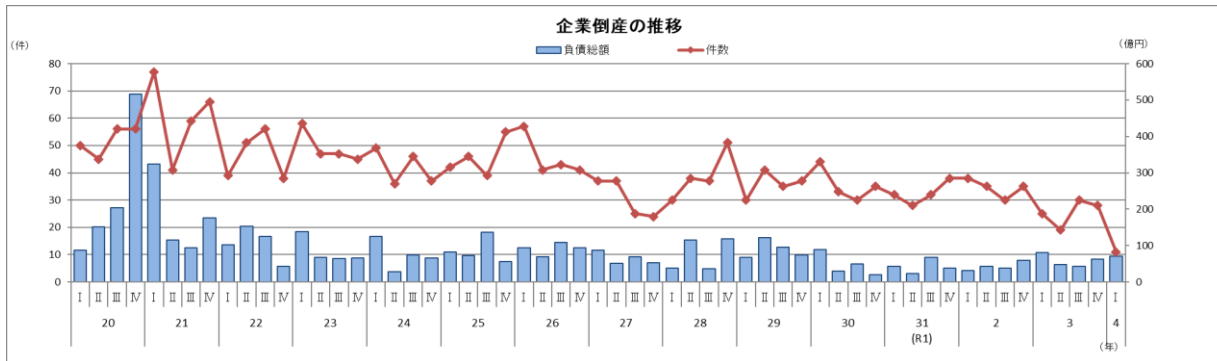
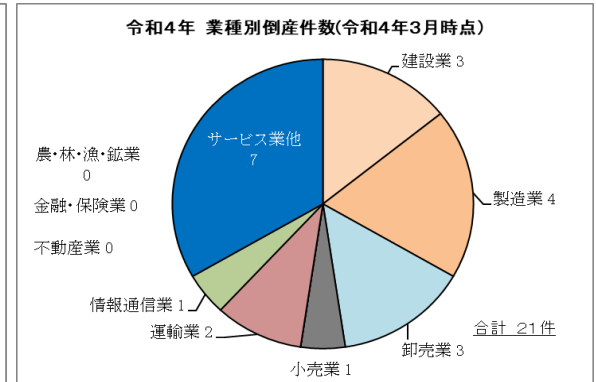
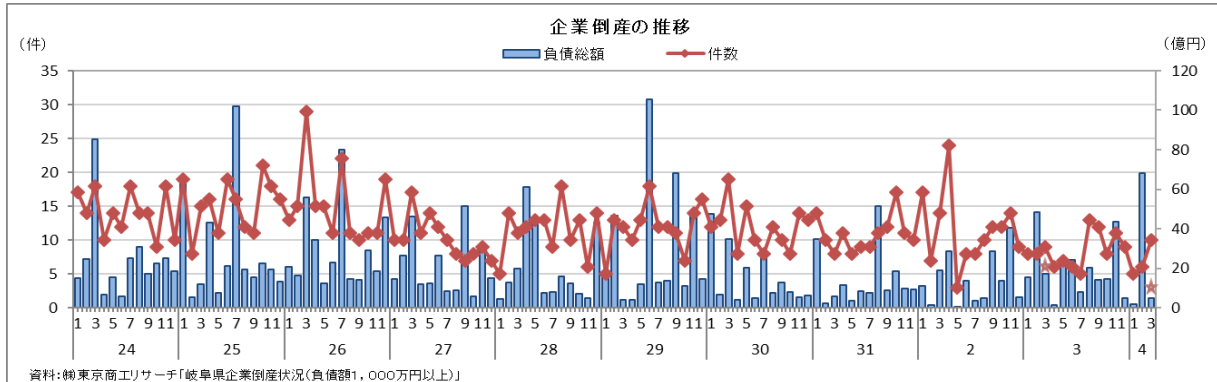
- R4年4-6月期の資金繰りDI見通しは▲24.6で、前期比2.0ポイント上昇。同借入難易感DI見通しは▲5.4で、同▲4.3ポイント低下。
- 1-3月期の主要資金別新規制度融資実績は、返済ゆったり資金で前期比163.5%と3期連続の増加、経済変動対策資金で同366.8%と3期連続の増加、元気企業育成資金で同▲17.0%と5期ぶりの減少となった。
- 3月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が38件で前年同月比▲129件減少、金額は757百万円で同▲2,288百万円減少した。
- 3月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は73件で前年同月比▲1.4%と減少、金額は855百万円で同4.4%と増加した。



# 倒産

○3月単月の倒産件数は前月比4件増の10件、負債総額は前月比▲6,340百万円減の477百万円となった。

○令和3年3月は負債総額1億円以上の倒産が2件発生し、令和4年3月は同倒産1件と減少し、負債総額は前年同月比242百万円減少した。



## 専門機関の分析(東京商工リサーチ、4月19日時点)

- ◆ 感染者数は一進一退を繰り返すが、大型連休を控えるなかで観光関連などのサービス産業では消費回復への期待が膨らんでいる。一方、経済活動が活発化すれば、運転資金の確保も経営課題となるほか、アフターコロナに対応した資金需要の必要などにも迫られる。岐阜県における倒産件数は10件程前後の推移が続いており、持続化給付金や休業協力金、実質無利子・無担保融資、新型コロナ特別リスケジュールといった各種支援策が倒産を抑制している構図に変更は無いものと見る。しかし、コロナ禍とウクライナ情勢により原材料不足と価格高騰は長期化の様相を呈し、利益面の回復には更なる時間を要する模様で、倒産件数が増加する懸念は強まっている。

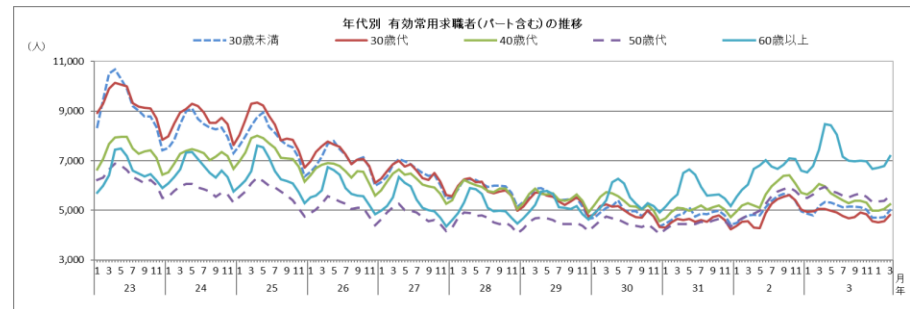
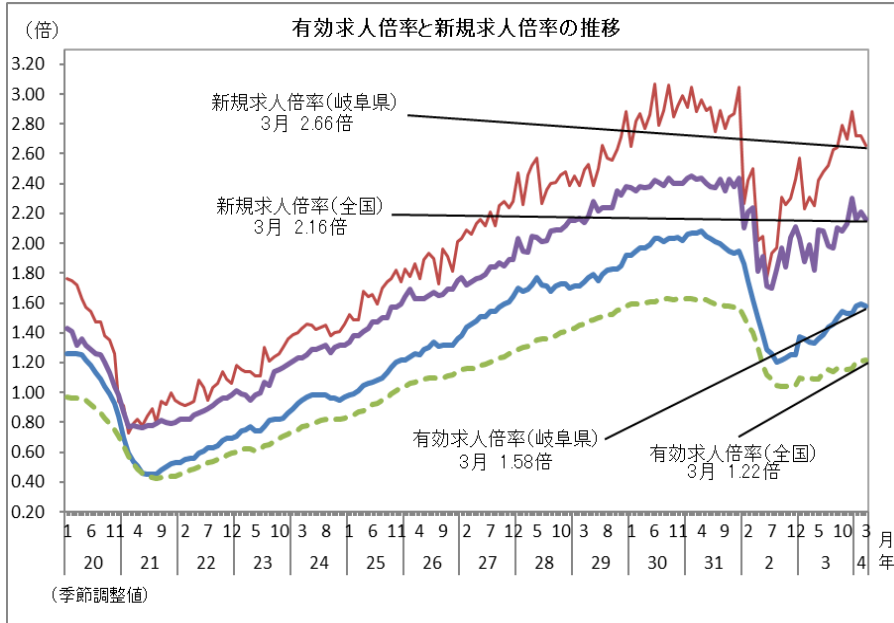
# 雇用

○3月の有効求人倍率は1.58倍と、前月比0.01ポイント低下した。

○3月の新規求人倍率は、2.66倍と同0.06ポイント低下した。

○3月の雇用保険受給者人員は、前月比▲1.1%と減少した。

○有効常用求職者は、50～54歳を除き、前年同月比で減少した。



## 現場の動き

- ◆ 次年度の新卒採用に向けて、リクナビなどを使い動いているが、製造業は避けられてしまうのか、思うように人が集まってこない。(輸送機械器具)
- ◆ 人手は充足しており、人数はそのまま増産に対応できるよう、合理化を目指している。(輸送機械器具)
- ◆ 人手不足が解消せず、技術系の社員募集に関して、有料の紹介会社を活用し始めた。(非鉄金属)
- ◆ 電子加工部品で中期的な事業拡大が見込まれており、製造管理者および現場作業者を多数募集している。(プラスチック製品)
- ◆ 既卒者の雇用ができればよいが、今後の売上見込みとの費用対効果を考慮すると、躊躇してしまう。(木工)
- ◆ 新卒採用は数的には問題ないが、専門的な職については獲得が難しい。(木工)

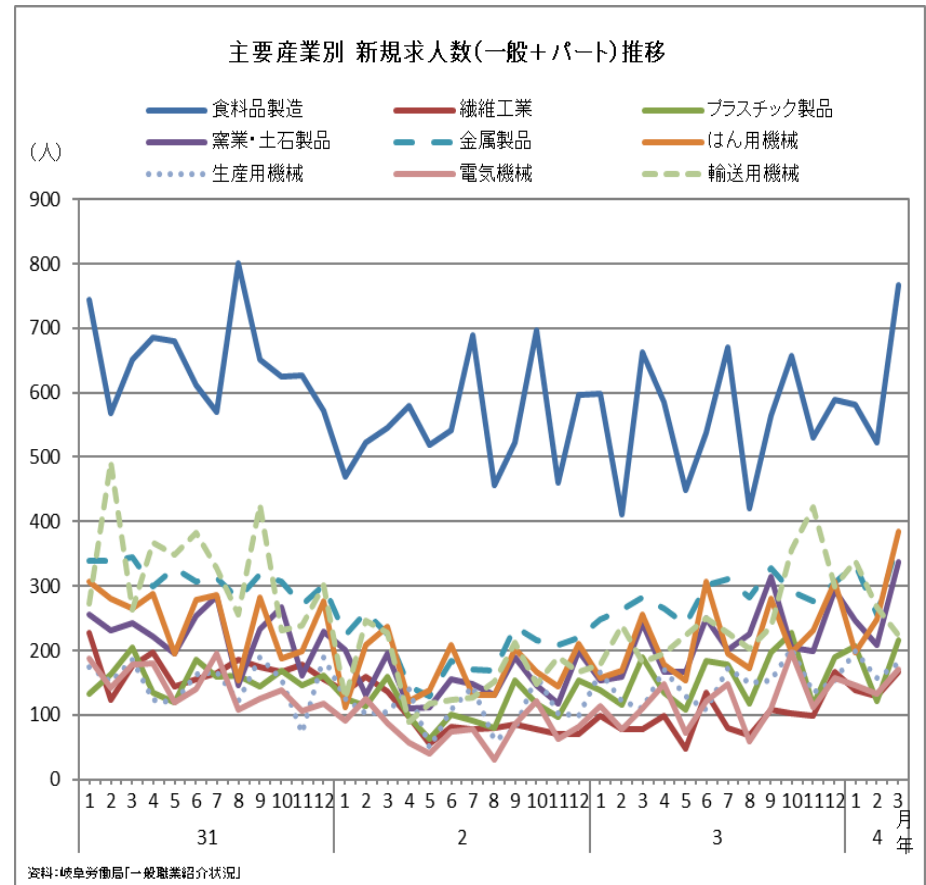
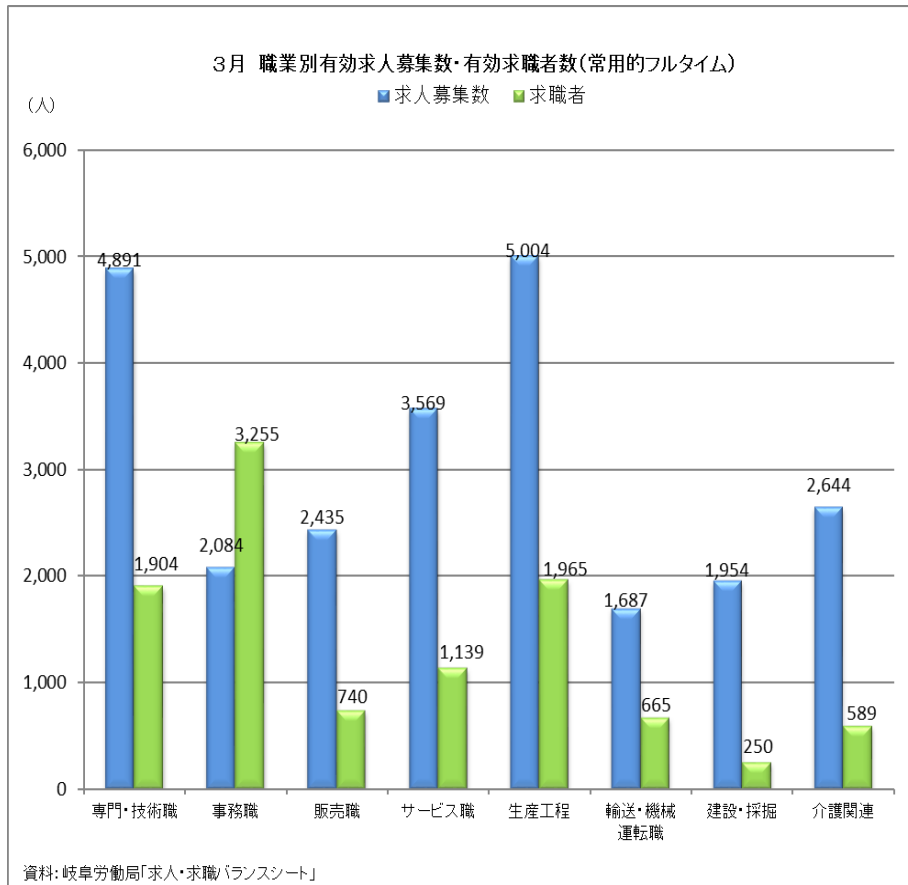


# 雇 用(職業別)

○有効求人倍率は、建設・採掘で7.82倍、介護関連で4.49倍、サービス職で3.13倍、販売職で3.29倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

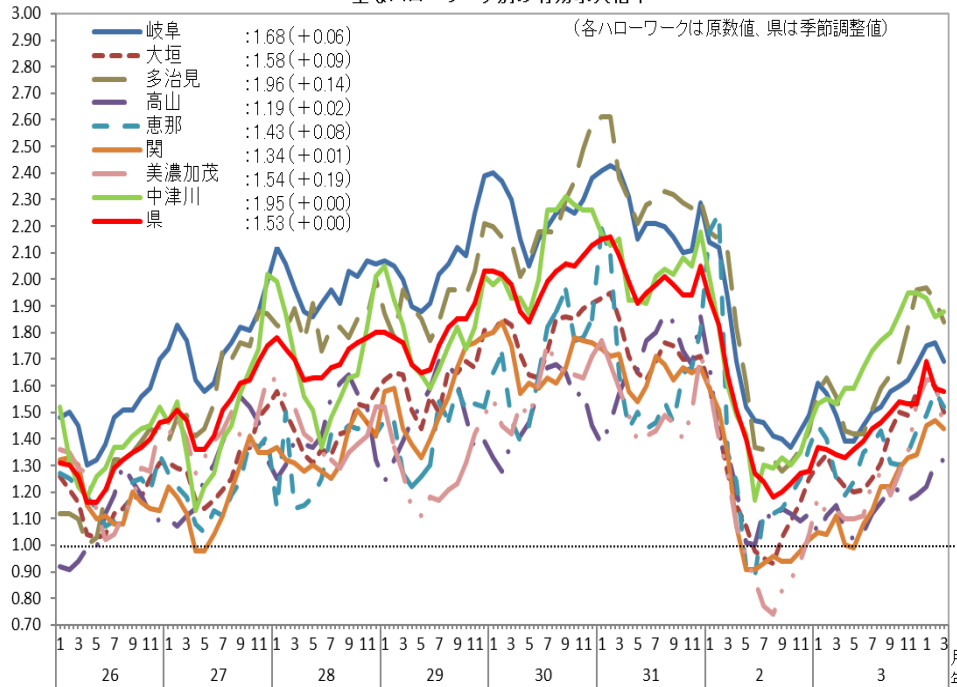
○一方で、事務職の有効求人倍率は0.64倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

○3月の主要産業別の新規求人数は、繊維工業で前年同月比115.58%、生産用機械で同63.06%、電気機械で同54.05%、はん用機械で同50.59%、窯業・土石で同39.09%、金属製品で同31.56%、輸送用機械で同23.08%、食料品製造で同15.54%、プラスチック製品で同14.81%と増加した。



# 雇 用(地域別)

主なハローワーク別の有効求人倍率



注1: 大垣所分は揖斐出張所分を含む 注2: 平成21年4月以降の関所分は岐阜八幡出張所を含む  
資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

○3月の主なハローワーク別の有効求人倍率は、高山、中津川で前月比増加し、それ以外の地域で同低下した。

## 現場の動き(前月比)

### <ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク大垣>

- ◆求人者数はやや増加、求職者数はやや増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク多治見>

- ◆求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク高山>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク恵那>

- ◆求人者数、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク関>

- ◆求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <ハローワーク中津川>

- ◆求人者数、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <窓口の様子>※前月比

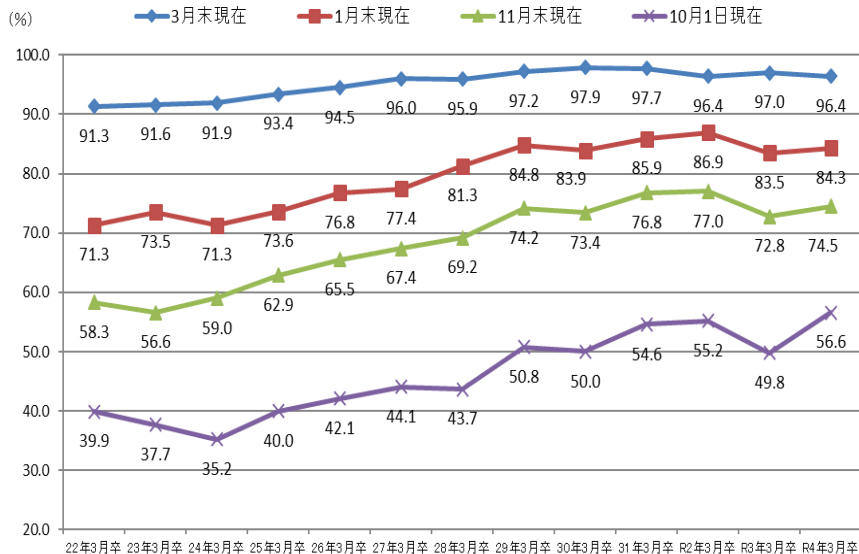
- ◆美濃加茂で混雑、恵那でやや混雑、岐阜、多治見、高山及び関で横ばい、大垣でやや空いている、中津川で空いている状況。

# 雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○岐阜県の令和4年3月末時点の大学・短大卒業者(令和4年3月卒業)の就職内定率は、96.4%であり、前年同時点と比べ0.6ポイント低下した。

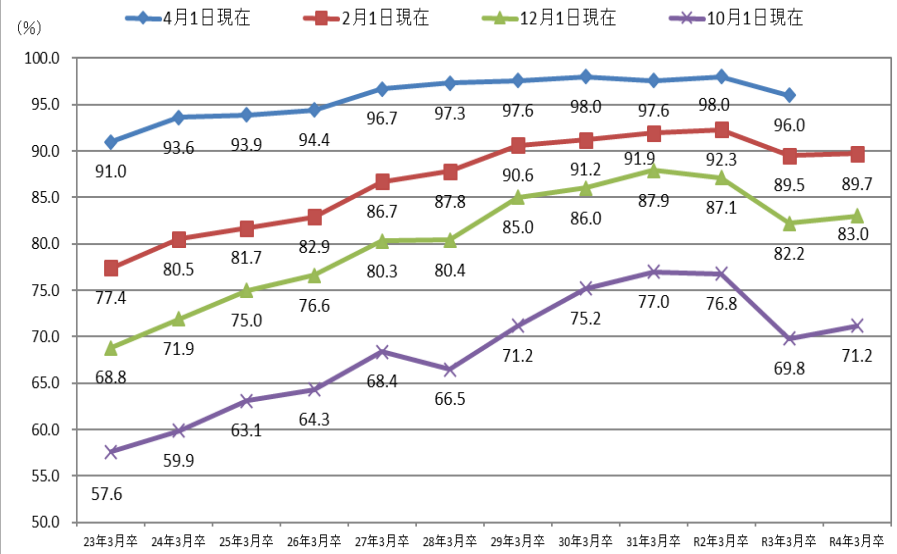
○全国の令和4年2月1日現在の大学卒業者(令和4年3月卒業)内定率は89.7%であり、前年同時点と比べ0.2ポイント上昇した。

新規卒業者(大学・短大)の就職内定率の推移<岐阜県>



資料:岐阜労働局「新規学校卒業者(大学・短大)の就職内定状況」  
資料:岐阜労働局「新規学校卒業者(大学・短大)の就職内定状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料:厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

## 現場の動き(2023卒、2024卒の動きなど)

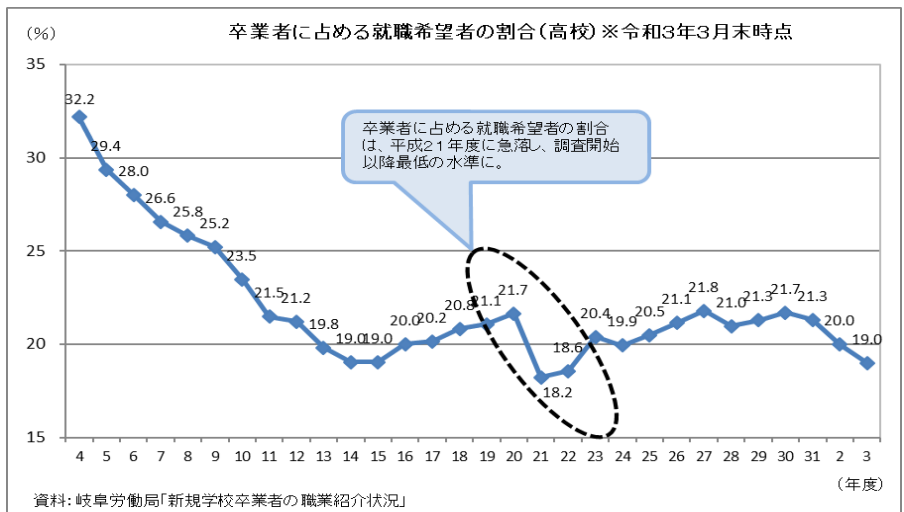
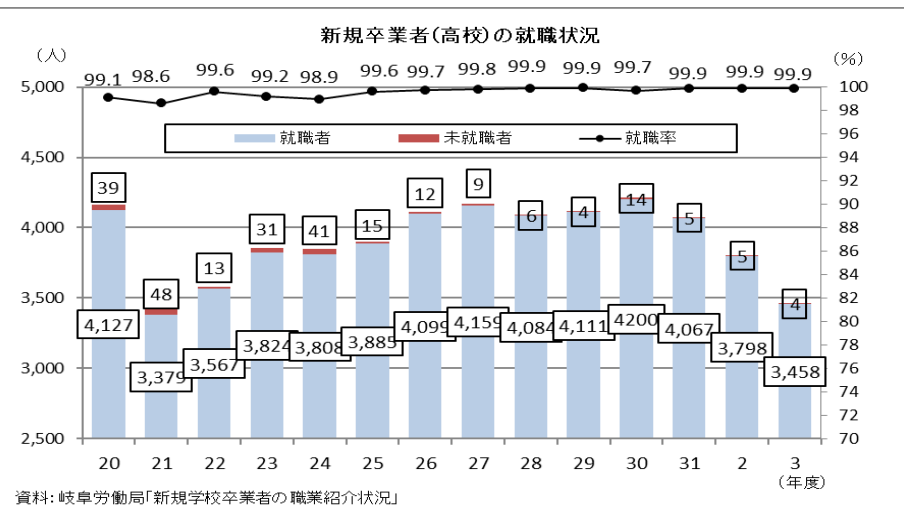
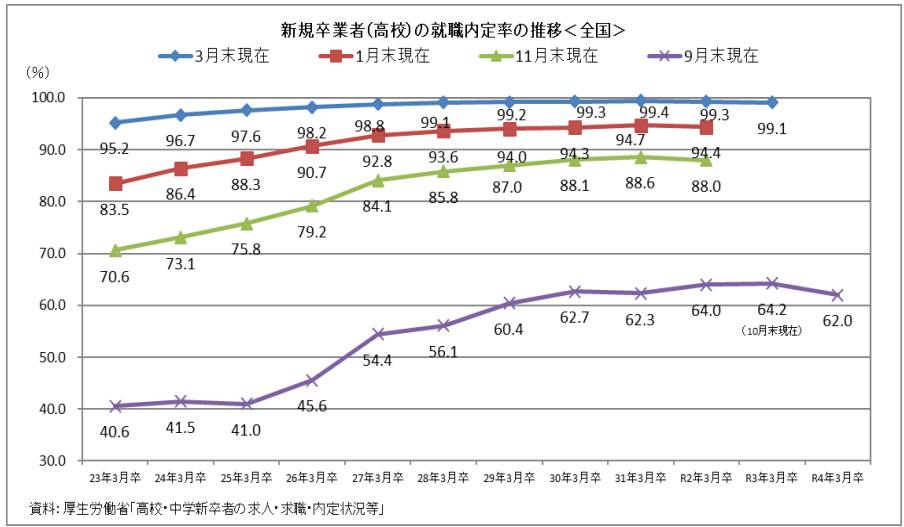
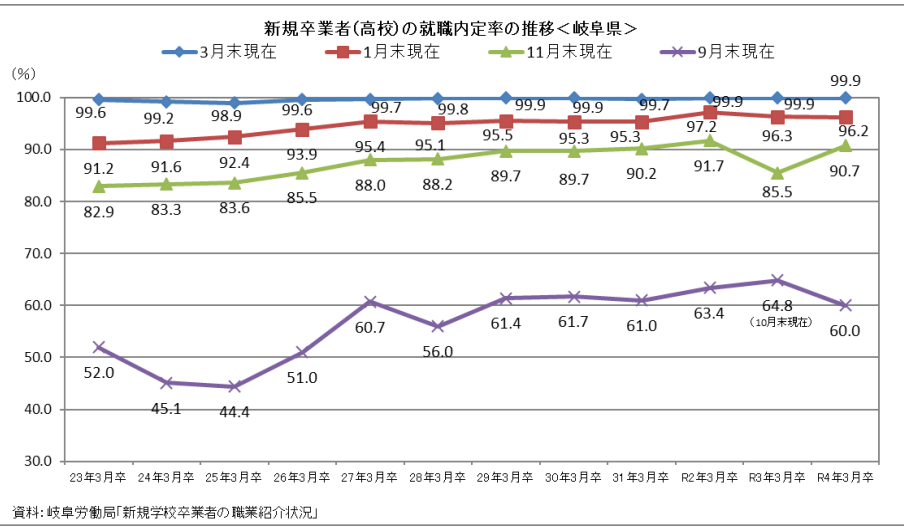
### <大学へのヒアリング>

- ◆ 23卒生の相談がかなり増えている。徐々に内々定を得ている学生もいるものの、全体の動きは鈍い。
- ◆ 24卒生向けガイダンスを3月に対面で実施。参加者は昨年並み。
- ◆ 24卒生で内々定獲得の学生も出始めた。(以上、岐阜県内大学)
- ◆ 23卒生で内々定は3~4割ほど。IT業界などが多い。
- ◆ 24卒生向けガイダンスを4月中旬より実施する。より前期にガイダンスのボリュームを集中させ、インターンシップへの参加促進を強化していく。(以上、愛知県内大学)

# 雇用(高校新卒者の就職)

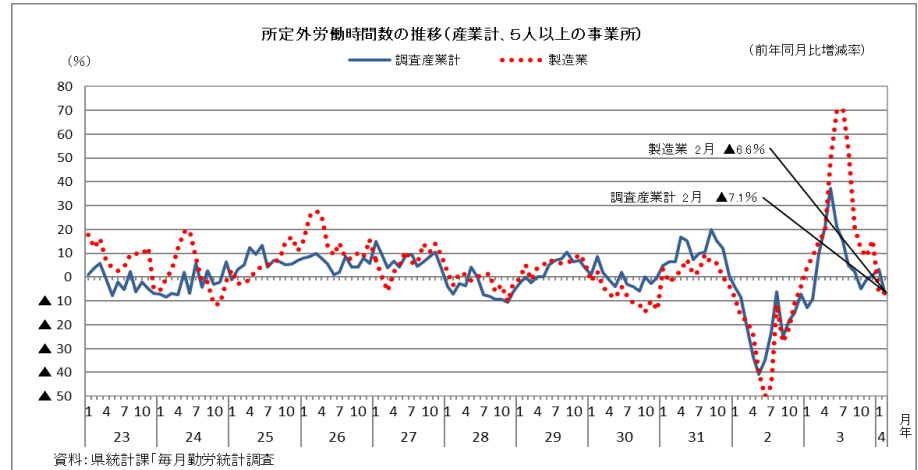
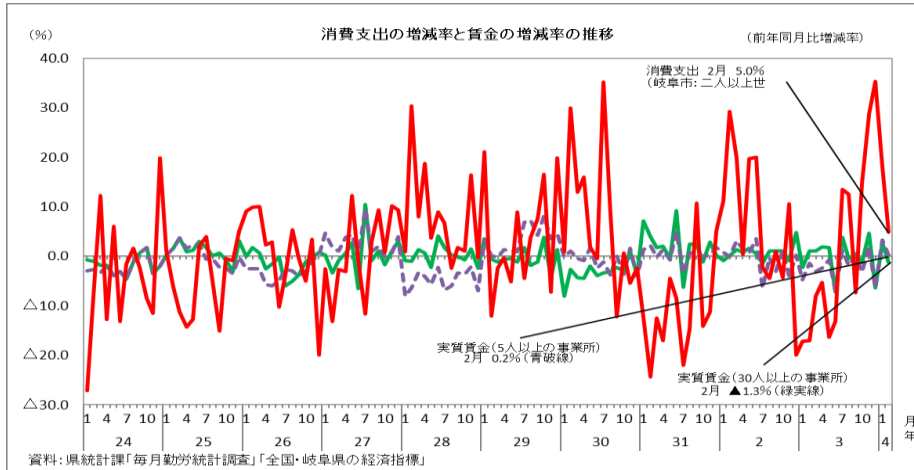
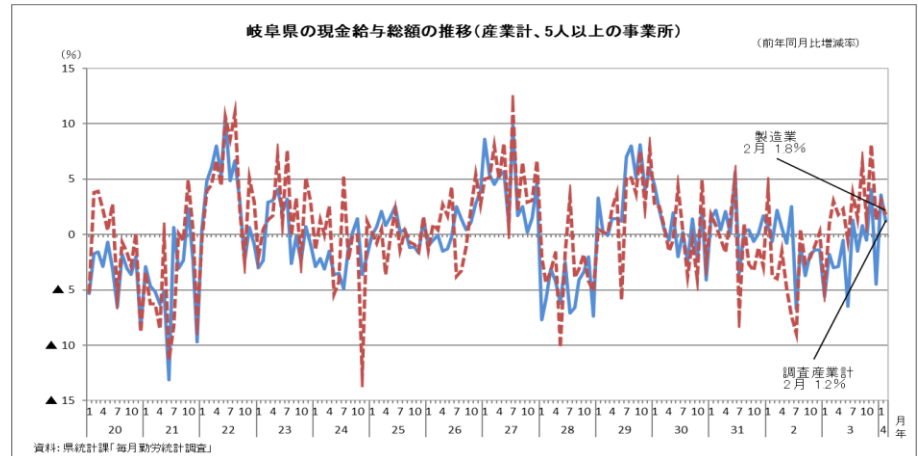
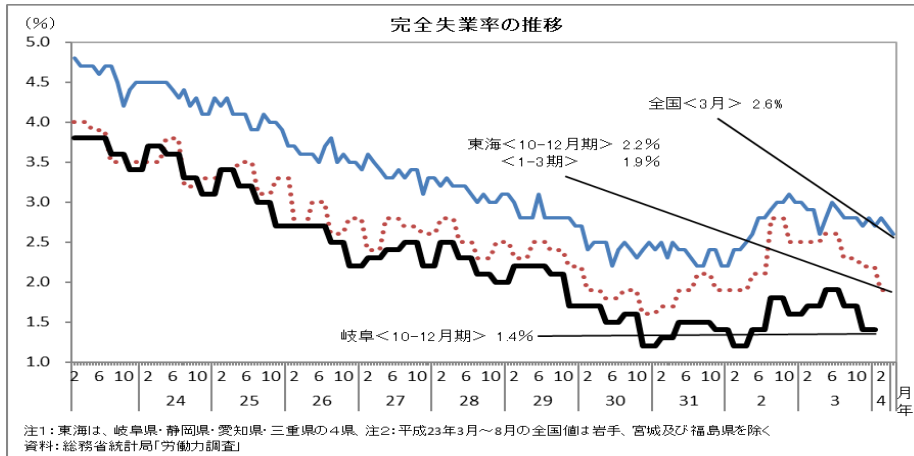
○岐阜県の令和4年3月末時点の高校卒業者(令和4年3月卒業)就職内定率は99.9%であり、前年同時点と比べ±0ポイントだった。

○全国の令和3年9月末時点の高校卒業者(令和4年3月卒業)就職内定率は62.0%であり、前年10月比で▲2.2ポイント低下した。



# 雇 用(完全失業率等)

- 全国の3月の完全失業率は2.6%で前月比▲0.1ポイント低下。岐阜県の10-12月期の平均は1.4%で前期比▲0.3ポイントと低下した。
- 2月の現金給与総額は、調査産業計で前年同月比1.2%上昇、製造業で同1.8%上昇。
- 2月の実質賃金増減率は、30人以上の事業所で前年同月比▲1.3%と減少、5人以上で同0.2%と上昇。2月の消費支出については同5.0%と増加した。
- 2月の所定外労働時間数は前年同月比▲7.1%で、3ヶ月ぶりに低下した。



# <経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業は、2月の鉱工業生産指数は前月比▲1.2%と僅かに低下。ヒアリングでは、原油価格高騰と円安の影響で、材料価格が過去にないほど急上昇しているという声や、供給制約について、電気部品関係だけでなく、樹脂や油関係の材料が入りにくくなっているという声、更にはトヨタの減産の影響で受注状況が悪化しており、4～6月の内示段階において、減産の動きがあるとの声が聞かれた。
- 地場産業は、2月の鉱工業生産指数は、食料品及び木材・木製品以外で減少した。ヒアリングでは、売上は前年比100%を超えているものの、ガスの値段が前年比2倍になっているという声や、原材料の値上がりに伴い、値上げを予定しているという声が聞かれた。
- 設備投資は、3月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比で30.0%増加した。ヒアリングでは、補助金を利用し機械導入を行ったことで、人力から機械へ変わり、生産効率が向上したという声や、電気代が高騰していることや、カーボンニュートラルへの取組みを推進していくために、太陽光発電設備の導入を検討しているという声、中堅企業では、蓄電池の開発やエネルギー開発のための設備更新があるという声が聞かれたものの、全体的に設備投資が活発ではないとの声が聞かれた。
- 個人消費は、3月の販売額は、家電大型専門店以外で増加し、全体で僅かながら増加した。ヒアリングでは、原材料価格高騰のため、客の買い物点数が減少しているという声や、一部メーカーで価格転嫁が始まり、販売価格が上昇する商品がでてきたとの声が聞かれた。
- 観光は、3月の観光客数、宿泊者数ともにコロナ前の令和元年同月比を大きく下回っている。宿泊施設からのヒアリングでは、まん延防止の解除や県民割の影響により予約が少しずつ増えてきたという声が聞かれた一方で、原材料の高騰があるが、値上げするのは難しいとの声も聞かれた。
- 企業の資金繰りは、3月の制度融資実績は、件数、金額ともに11ヶ月連続で前年同月比で減少した。金融機関からは、ゼロゼロ融資から一服し、融資には慎重であるという声が聞かれた一方で、EVシフトへの対応等のための設備投資を行う企業も出てきているとの声が聞かれた。
- 雇用面は、3月の有効求人倍率は1.58倍と7ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、中期的な事業拡大が見込まれており、製造管理者や現場作業者を多数募集しているという声が聞かれた一方で、既卒者の採用ができれば良いが、今後の売上見込みとの費用対効果を考慮すると躊躇してしまうとの声が聞かれた。